

保全施設設置をきっかけに 体験学習や農産物ブランド化など 幅広い活動への展開

えのきまえかんきょうほぜんかい
愛知県：榎前環境保全会

○団体の活動目的と経緯は？

【目的】

水田環境における生物多様性の保全及び農地・農道・水路等の維持管理と機能の向上

【経緯】

混住化が進展する中、農地や農業水路等を適切に管理して水田の生物多様性を保全するため、環境保全会の構成員と耕作者等の関係者が話し合い、水田魚道を設置した。それをきっかけに、保全活動を行い、地域活動の活発化に繋がっている。



生きもの観察会

○環境保全施設と関連情報

【環境保全施設】水田魚道

【活用した事業等】農地・水環境保全向上対策事業

【保全対象生物】魚類・カエル・水生昆虫等の水生生物

○どんな生態系保全の取組を実施？

1. 生態系保全施設の維持管理

①草刈り・泥上げ・補修や新設

・水田魚道、農道、農地畦畔等の維持管理・新設

2. 生物多様性の保全

①生きもの観察会

・当会と子ども会を中心に水田魚道を通して水田に入った生きものを観察
(6月から9月まで週2回)

3. その他

①伝統的農法の保全

・稲作体験、サツマイモの植え付・収穫

②収穫祭の開催

・生きもの観察会の報告や農業体験の感想、収穫物での昼食会を実施

③広報、啓発活動

・イベント案内や活動報告を町内情報誌に掲載



魚道の様子



施設の維持管理

○継続した活動でこんな効果が！！



子ども達に説明する様子

■環境保全型農業を実践する農家の増加

・魚道を設置した水田の面積は8区画(9,700㎡)で、設置後は集落内の農業者も減農薬・減化学肥料を実践するようになった。

■生物生息状況の改善

・減少していた水田の生きもの(ドジョウやギンブナなど)が、平成23年の7月にはドジョウ300匹・ギンブナ1,000匹を超える数が水田にて孵化しているのを確認できた。

■保全区域(4ha)で生産された米のブランド化

・平成23年度から、地元生協などで「どじょうの育み米」を販売している。

○課題・苦労した点

■生きものに対する知識不足

・生きものの種類や名前等が、自分たちでは詳しくは分からないことが多く、知識不足で苦労した。

■ブランド米の生産量

・ブランド米として生産量をあげるために、水田魚道の増設が必要であった。

○工夫した点

■参加した子供たちと一緒に図鑑で調べる

・子供たちと一緒に図鑑を見ながら進め、参加者との一体感のあるイベントとなっている。また、生きものに詳しい子供に教えられながら楽しい活動となっている。さらに、農業試験場から専門家にも教えてもらっている。

■外部組織との連携による魚道の新設

・土木建設業者や農業試験場、地元公民館の協力員など、他団体との連携を取ることで魚道の新設・増設を実現している。

○活動の特徴！！

■様々な活動を実施

・施設の維持管理や生きもの観察会だけでなく、伝統的農業の保全や収穫祭、農産物のブランド化や広報活動など、幅広い活動によって活動が継続されている。



○団体の概要は？

- ・平成19年度に設立され、活動エリアは愛知県安城市榎前町(旧明治村辺り)である。
- ・任意団体であり、人数は840名。
- ・年間運営費は補助金が100%となっている。
- ・年間活動日数は、約150日である。

